

## 家族性高コレステロール血症の頻度と治療

東北大学小児科	多	田	啓	也
仙台赤十字病院	千	葉		良
	大	友	弘	美
	大	泉	良	文
	松	本	文	子
	望	月	恵	子
	麻	喜	恒	雄
中新田高等学校	横	山	茂	樹
	北	村	徳	子
仙台第一高等学校	石	田		望
	門	馬	純	子
宮城県大河原町平井内科	平	井	達	郎
宮城県学校保健会	師		研	也

### 〔目的〕

ヘテロ接合体において30代後半より40代前半までに典型的な心筋梗塞を発症する家族性高コレステロール血症の頻度の調査とその治療について検討した。

#### A. 高コレステロール血症の頻度

##### 〔対象〕

昭和55年及び昭和56年に宮城県中新田高校 672名（男255名，女417名），昭和56年宮城県仙台第一高校男子580名，計1,252名（男835名，女417名）について，血清総コレステロール（以下 TC と略）の検査をした。血清 TC 200 mg/dl 以上のもの160名については，HDL コレステロール， $\beta$ -リポ蛋白，LDL，VLDL，カイロミクロンを測定した。

##### 〔結果〕

血清 TC 200 mg/dl 以上のものは 160/1,252，12.8%（男79/835，9.5%，女81/417，19.4%）であった。昭和55年度は90/539，16.7%（男25/210，11.9%，女65/329，19.8%）であり，ほぼ同じ割合であった。家族性高コレステロール血症の最低値（TC 250 mg/dl， $\beta$ -

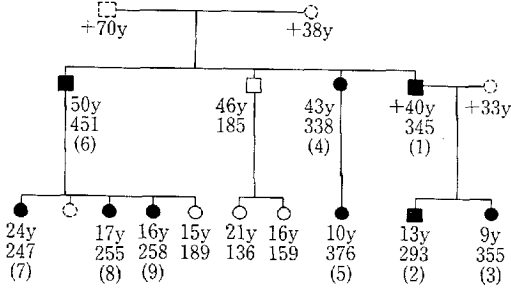
リポ蛋白600 mg/dl，LDL 500 mg/dl）より高いものは危険度が高いと推測されるが，それらは 6/1,252，0.5%（男1/835，0.1%，女5/417，1.2%）であった。昭和55年度は2/539，0.37%であり，女子だけであった。今年度は男子にもみられたが女子の方が多かった。そのうち家族性高コレステロール血症と確診したのは女子1名で，女子高校生では1/417，0.2%，全高校生では1/1,252，0.08%であった。

#### B. 家族性高コレステロール血症の治療

##### 〔対象〕

昭和55年度外来の高コレステロール血症のスクリーニングで見出した1家系と昭和56年度高校生のスクリーニングで見出した1家系の計2家系である（図1）。症例1は34才及び40才で心筋梗塞になり死亡した。症例6は43才で心内膜下梗塞を発症した。症例2（男13才），症例3（女9才），症例4（女43才），症例5（女10才），症例11（女16才）の計5名に，食事指導（TC 200~250 mg/日以下）を3週間から約6カ月間試みた後，コレステラミン（8g/日→12g/日）を投与した。症例2及び3は入院

家系 1



家系 2

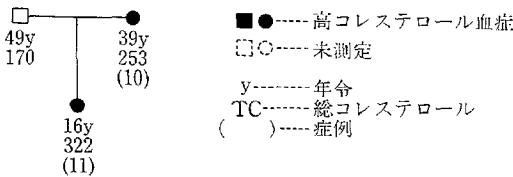
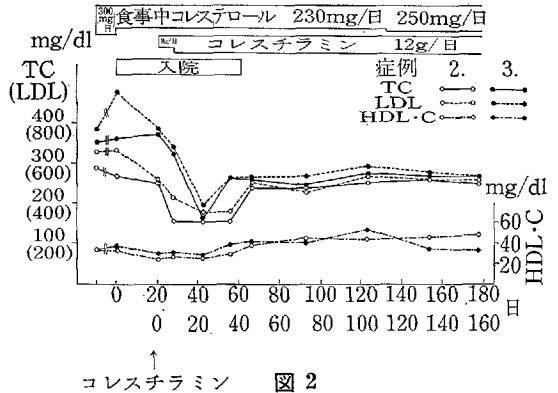


図 1

させ厳格な食事指導を行い他は外来で行なった。

〔結果〕

入院により厳格な食事指導 (TC 230 mg/日 以下) を行ない、コレステラミン投与を行なった例では(図2)、投与7日後に血清 TC 及び LDL ともに下降し、投与21日後には最低値 (TC 症例2, 186 mg/dl, 症例3, 187 mg/dl, LDL 症例2, 361 mg/dl, 症例3, 393 mg/dl) に達した。投与35日後には症例3はやや上昇し、投与46日後には症例2もやや上昇を示したが、その後両



例とも投与157日後の検査まで、血清 TC は 250~260 mg/dl, LDL は 530~546 mg/dl の値に維持された。投与約1カ月後にみられた上昇は、肝の LDL 代謝の変化による影響と退院により厳格な食事摂取が行なわれなくなったためと推測される。外来での治療は、症例4は血清 TC 及び LDL ともに下降せず、症例5は血清 TC は下降せず、LDL は 100 mg/dl の下降のみをみた。症例11は血清 TC 及び LDL ともに検査日により昇降がある (TC 100 mg/dl, LDL 160 mg/dl の下降もある)。食事指導が厳格に行なわれていない、服薬の時間が守られていないことが考えられ検討中である。

〔結論〕

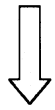
高校生のスクリーニングで、家族性高コレステロール血症は 1/1,252, 0.08% であった。家族性高コレステロール血症に食事療法とコレステラミンの投与を行い検討した。

## 静岡県沼津市の幼稚園児の血清脂質

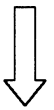
日本大学小児科 大 国 真 彦  
 沼津市立病院小児科 梁 茂 雄  
 園 医 柳 谷 敬 二  
 校 医 杉 谷 正 東

以前より、我々は静岡県東部の小学生児童の血清脂質の調査を行い、その結果、都市部の小学生児童の血清総コレステロールが非常に高いことを報告してきた。

今回我々は、更に低年齢の幼稚園児の血清脂質を調査し、幼稚園児と小学生児童との血清脂質の推移を検討した。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔目的〕

ヘテロ接合体において 30 代後半より 40 代前半までに典型的な心筋梗塞を発症する家族性高コレステロール血症の頻度の調査とその治療について検討した。